

# 神戸市立池田小学校 学校評価報告書

校園長名

野田 美保

記入者名 大島 伸一

| り学の校目づ標く    | ・子ども一人一人を大切にできる学校<br>・子どもが育ち自立していく学校 |   |                  |   |   |   |
|-------------|--------------------------------------|---|------------------|---|---|---|
| 内容          | 重点的な取組み                              | 評点<br>(4段階)   | 特記事項<br>(学校自己評価) | 関係者評価<br>(学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)  | 学校自己評価、関係者評価を踏まえた<br>次年度の重点的な取組みの案  |   |
| 育てたい子供の姿    | 心ゆたかな子                               |   |                  |   |   |   |
|             | 元気いっぱい                               | 健康で安全な暮らしを考え、実践する。<br>困難にまけないたくましい心と体をもつ。<br>正しく判断して行動する。                           | 3                | 校内では大きな事故やけがなく過ごすことができたが、校外での交通事故など安全な暮らしには課題が残る。<br>子供たちの体力アップの取り組みとして、体アップチャレンジや縄跳びチャレンジを取り組み、子供たちの運動へのモチベーションを上げることができた。                                   | 通学路の中で横断する箇所など危険を感じる場所がある。見守り活動で見守られているところも多い。子供たちが段差のない所で躓いているところを見かける。大きなけがになることもあり、こけ方が下手だと感じた。  | 通学路の安全については、要望書などにも挙げていくが、登下校時の安全確保の為に、PTAや地域にも協力を求めていく。体力アップの取り組みは今年度だけではなく、縄跳びチャレンジなど、来年度も引き続き行う。                                     |
|             | やる気いっぱい                              | 基礎的な知識・技能をもつ<br>自分で課題を見つけ、解決に向けて考え、工夫する楽しさをもつ                                       | 3                | 個別の支援とともに、中学年での放課後学習を行った。モジュールにおける授業形態の共通理解や授業についての研修を引き続き行っていく必要がある。   | タブレットを使う宿題は児童館などでは実施が難しい。漢字の練習は、きれいにかけないことに苛立つ子もいる。基礎基本の力はとても大切だと感じる。   | 基礎的な知識・技能を付けるためにも、授業中の支援や、個別に合わせた課題の使用などを進める。放課後学習については更に効果的な対象学年や児童について検討を進め、来年度も引き続き実施する。   |
|             | やさしさいっぱい                             | 生命の大切さを知り、お互いを思いやる心をもつ。<br>言葉を大切にし、自分の思いを伝え合う。                                      | 2                | 様々な行事が行われ、協力して課題に取り組む経験を積むことができた。また、命の感動体験では、自分や他人の命について真剣に考える様子が見られた。しかし、乱暴な言葉が飛び交うことも見られ、指導を続けていく必要がある。   | 子供たちは以前より落ち着きを見せ、生活や学習のリズムが取れるようになってきている。休み時間と授業時間の切り替えが早くなっている。授業中の発表で自分の意見についてしっかりと説明ができるようになってきている。しかし、言葉遣いについては、引き続き優しい言葉遣いの指導が必要だと感じる。 | 友達を大切にすることは自分を大切にすることにつながる。乱暴な言動が飛び交うことのないように、個人・学級・学校全体に声をかけること。一年を通じて教材を利用した指導を行うことを続けていく。また、「命の感動体験」のような、ゲストティーチャーや各種の連携授業の活用も進めていく。 |
| 全市的に推進すべきこと | ①いじめ防止対策に関する取組み                      | 学期ごとにいじめアンケートをとり、友達同士の関係や潜在的な危険性の把握を行う。終礼での連絡と、月に1度いじめ対策会議と職員会で現状の共通理解を図り、指導体制を整えた。 | 3                | いじめアンケートでは、友達関係のトラブルを深刻化する前に未然に防止することができた。事案については、いじめ対策会議を定期と臨時も行い、双方に丁寧に対応することで解消に導くことができた。未然に防ぐための取り組みとしては、道徳などの時間や休み時間の過ごし方への指導となるが、引き続き続けていくことが大切であると感じる。 | いじめは年齢が高くなれば、分かりやすい事例よりも潜在化したものが増えていく。たわいない言葉の中に冷たさや良くない言い方があるのではないかと感じる。話をよく聞くことは大人だけでなく子供たちにも必要なのだと感じる。起こってから対応も大切だが、未然に防ぐ対策も大切だと感じている。   | いじめアンケートに上がっている事はもちろん、普段から子供たちの様子をよく見ること、話をよく聞くことを大切にしていきたい。事案への対応は、担任だけでなくいじめ対策委員会を中心に学校全体で対応し、いじめの解消を目指していく。                          |
|             | ②不登校支援の取組み                           | 不登校傾向のある児童への複数による支援関係機関との連携<br>自宅での学習支援   | 3                | 比較的人数は少ないが、不登校傾向のある児童へは、登校できることだけを目的とはせず、様々な可能性を視野に入れて関わることをしている。しかし、学校との関係を切らず、児童や保護者の思いを聞いて対応を考えることを大切にしている。  | 不登校でなくとも、友達関係や勉強がむずかしく学校へ行きにくいと感じる児童がいると思う。丁寧な対応を続けてほしい。また、サポートルームもあるとよいと思う。  | サポートルームの整備を進めていく。不登校の児童への対応は一人一人違うが、学校との関係が切れないよう根気強く対応を続けていく。オンラインでの学習支援も必要に合わせて実施できるようにしていく。  |
|             | ③教職員の業務改善                            | 支援システムを利用した、手続きの簡略化<br>曜日ごとの業務の定型化を行う<br>電話対応や退勤の目安時間の設定を行う。                        | 3                | 個別懇談会や保護者向けのアンケートなど、支援システムを利用して手続きを簡略化することができた。職員の退勤時間を早めることはまだ十分ではなく、さらに業務の改善を図る必要がある。   | 子供の話のみを一方向的に聞くのではなく、他者への共感が必要であると感じる。笑顔で子供たちに接するためにも、業務改善は必要である。  | 各種アンケートの実施や集計など、支援システムの積極的な活用を進めていく。退勤時間や施設についても改善を図っていく。   |
|             | ④「すぐる」の活用、ホームページにおける情報発信             | ホームページで学校の様子をリアルタイムに伝えていく。<br>アンケート等、すぐるの活用を積極的に進める。                                | 4                | 学校の様子を中心にホームページのリニューアルを行った。すぐるによるアンケート実施などを進めた。各種のたよりについては次年度以降に進めたいと考える。   | すぐるの活用は紙の印刷物よりも素早く周知するために役に立つと感じる。  | 「すぐる」での情報配信は今後も発展させていく。一方で、メールで内容を正確に伝えられるように、気を付けていきたい。また、ホームページの情報配信は個人情報保護に配慮しつつ、子供たちの活動をリアルタイムに発信していく。                              |
|             | ⑤学校生活のルールや決まり(校則など)について              | 子供の権利条約について研修を行う。<br>合理的なルールになるよう見直しを行い情報発信を行う。                                     | 3                | 学校の約束が合理的なルールになるように見直しを図り、運営協議会などでも点検をお願いしている。学校が安全に安心して生活できる場になるように、見直しを続けていきたい。   | 時代が変われば校則も変わるだろう。子供たちが安心・安全に学校生活を送れるようにすることが目的だと思う。一つ一つのルールを毎年丁寧に見直すことが大切だと考える。   | 年度内に必要な改訂を行っていききたい。安心・安全に過ごすことができるように、子供たちや保護者にも周知していく。   |

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある